

令和2年度 学位記授与式 ー学長告辞ー

一斉雪下ろしを行うほど豪雪であった冬もようやく終わり、高田城址公園の桜もつぼみが例年通り膨らみ、開花の準備もととのったようです。吹き抜ける風に春の独特な香りを感じる頃となりました。

上越教育大学を卒業される 165 名の皆様、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。いつ収束するか見当もつかない新型コロナウイルスの影響で、本日の卒業式の規模を縮小せざるを得なかったこと、誠に残念ですが、現在の社会情勢の中、やむを得ない対応かなと思っております。

卒業生の皆さん、最後の1年間はコロナ禍で大変だったと思います。外出自粛などの制限や、マスクや手洗いの励行など生活様式にも制約がかかり、社会全体に閉塞感が漂いました。大学でもオンライン授業の導入や課外活動の禁止など、キャンパス内にも大きな影響が出ています。そのような中ですが、本学での4年に渡る学園生活はいかがでしたか。

皆さんはお忘れかもしれませんが、4年前の入学式の時に私から、「この4年間で夢中になれるものを是非見つけてください。これだけは他の人には負けない、これだけは自信がある、これだけは頑張ったというものを身につけて頂きたい」とお願い致しました。それは、資格の取得やボランティア活動でも良いし、スポーツ、文化活動や部活・サークル活動で頑張るのも良いかもしれないと申し上げました。なぜなら、その経験は社会人となったときに必ず支えとなると信じているからです。また、大学では「一生の宝となる友人を見つけて下さい」ということをお願い致しました。いかがだったでしょうか。

4年の間にいろいろな思い出が出来たことでしょう。卒業生の皆さんが、本日晴れて卒業できますのは、皆さんの努力があったことはもちろんですが、家族、友人、教職員、地域の方々など多くの人たちの支援があったことを決して忘れないで下さい。

最近では、Society5.0 や第4次産業革命と言われ、科学技術の発達により、さまざまなモノがインターネットにつながり、それを人工知能（AI）が制御し、ロボットが活躍する社会が近づいています。科学技術の進歩、交通や情報網の発達等で、私たちを取り巻く社会は急激に変化し、生活様式や人々の価値観にまで影響を及ぼしています。今の子供達が日本や世界を支える年代になったときには、想像もできないような社会になっていると思われれます。

既に先端技術が教育現場にも導入されつつあります。文部科学省も「GIGA スクール構想」を進め、1人1台端末の実現や高速大容量の通信ネットワークの一体的な整備などを進めています。タブレットパソコンを用いて、離れた子供たちが同時に学んだり、子供たちそれぞれの学びに応じて個別学習に利用したり、子供たちの理解度を AI が見極

めたり、これからは先端技術をもっと利用する状況になるでしょう。

一方、科学技術の発達や生活の利便性向上に比例するように、未来に解決しなければならない課題も増大しています。皆さんもご存じのようにSDGs（持続可能な開発目標）では、17の大きな目標が掲げられていますが、その中に「気候変動に具体的な対策を」や「海の豊かさを守ろう」など、自然環境に関わる目標も挙げられています。

例えば、気候変動の課題では、特に地球温暖化に関わる問題が深刻さを増しています。これまでのように二酸化炭素などの温室効果ガスを継続して排出した場合、ある調査では100年後の日本の気温は現在よりも3℃程度高くなるとも予測されています。

この地球温暖化問題に関しては化石燃料を用いない「カーボン・ニュートラル」の実現、そのための一策として世界各国でガソリンエンジンの自動車の製造・販売を将来、禁止する計画が相次いでおり、これからは電気自動車などの普及が大きく進むでしょうし、太陽光、風力、波力・潮力、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーの利用に拍車がかかることでしょう。

また、温暖化に起因する海面上昇の問題や、海洋汚染の問題も深刻です。海には毎年少なくとも約800万トンものプラスチックごみ流れこみ、既に全体で約1億5,000万トンものプラスチックごみがあると言われています。2050年にはそれが海にいる魚と同じ量にまで増えると予測されており、海の生態系に大きな影響を与えています。

一方、食糧問題も地球規模で大きな問題です。現在の世界の人口は約78億人ですが、2050年には約100億人になると予想されています。地球上では現在でも飽食の地域と飢餓の地域が存在していますが、人口の増加につれて現在のままでは食料システムが破綻（フードショック）することも指摘されています。

このように、子供達が支える未来の社会は、科学技術やAIなどが発達したものであるとともに、解決すべき大きな課題が残されている社会です。そのような中で自らの未来について学び、主体的に考えることは全ての学びの基となり、大きな意義を持ちます。卒業生のほとんどの皆さんは、学校の教師や何らかの意味で教育に携わる仕事に就くことと思います。子供達には「自ら主体的に学ぶ力、コミュニケーション能力を伴った対話的な学び、論理的思考に基づく深い学び」など、未来を生きるための力を身につけることが必要で、教育現場にもその対応が求められています。子供たちがどのような能力を身につけるかは、教育に委ねられており、教師の責任は重大であると言えます。ICTやAIがいくら発達しても、人間を相手にする「教育という活動」では言うまでもなく、教師が最も大きな影響力を持ちます。いつまでも子供達の心に残るような思いやりのある教師となって下さい。

皆さん自身も、自ら学ぼうとする意欲を持ち続けてください。自分ができること、やりたいことに集中して、常に前向きに取り組み、真剣に準備している人に、結果は付いてきます。健康に十分注意して、多くの子供たちから慕われ、いつかは先生のようになりたいと思われる教師となってください。本学の卒業生として、皆さん一人ひとりが自

らの手で輝かしい未来の扉を開け、人生を充実したものとされるよう心より祈念し、告辞といたします。

令和2年3月19日
国立大学法人 上越教育大学長
川崎 直哉